

まだまだ厳しい寒さが続き、マフラーに首をすくめて歩くような日々ですが、皆さんはいかがお過ごしですか。約2か月ぶりのドイツ NOW、今回はお正月特集です。ドイツのお正月をぜひのぞいてみてください。来年はドイツ風に、一味違ったお正月を過ごすのも面白そうですね。

お正月休みはない!?

学校に通っている場合は、クリスマスとお正月休みが一つになっていて、Weihnachtsferien(クリスマス休暇)と呼ばれています。日本の学校の冬休みとほぼ同じようです。一方で働いている人はというと、、25日(第1クリスマス)、26日(第2クリスマス)は休みですが27~31日は通常通りに仕事をします。元日は休みですが2日からはまた仕事だそうです。また、ドイツの年末と言えば、年越しの瞬間に上げられる花火があります。ここでクイズです! ドイツでは、一般人が花火を上げることが出来る日が限られています。その日数は1年で何日でしょうか?

- ①2日 ②5日 ③7日

正解は①の2日です。なんと大晦日と元旦の2日間だけだそうです。そのため、ここぞとばかりに打ち上げ花火や爆竹などが盛大に上げられます。年越しの夜は賑やかで、除夜の鐘など誰の耳にも届きそうにはないですが、盛大に祝う雰囲気はとても楽しそうです。

お正月は何を食べる?



ドイツでは、日本のように年末年始にまとまって仕事を休む習慣がないため、年越しそばやおせちのように特別なものを食べることはほとんど無いそうです。元日であっても、翌日が仕事のため普段の食事をすることが多いそうです。そんなドイツのお正月ですが、Neujahrskranz(ノイヤースクランツ)を食べるという伝統があります。これはヘーフェツォップフと呼ばれる三つ編みのパンです。普段は棒状にまっすぐ焼くのですが、新年はリースやプレッツェルの形にします。リースは固い絆や幸運、健康を運ぶシンボルとされていて、縁起が良いとしてこのパンが贈られることもあります。

幸運を運ぶ Glücksbringer とは？



ドイツでは、年末年始には街中で頻繁に Glücksbringer を見かけます。「Glück」は幸運、「bringer」は「運ぶ」という意味の動詞「bringen」に由来します。この言葉を合わせると「幸運を運ぶもの」という意味になります。日本でも「縁起物」という文化がありますが、ドイツの Glücksbringer にはユニークなものがたくさんあります。例えば、四葉のクローバーや豚、煙突掃除人の人形などがあります。

新年の挨拶はどうする？

ドイツでは、新年を迎えるときに「Guten Rutsch! (良い滑り出しを!)」という挨拶がよく使われます。これには「新年を良い形で迎えられるように」という願いが込められています。そして、新年を迎えた瞬間には「Frohes neues Jahr! (新年おめでとう!)」という挨拶でお互いを祝います。

ドイツの方へのインタビュー

昨年の受け入れ事業で大宮高校に訪れた、ルドヴィヒ・ライヒハート校の Carlo Weichert さんにインタビューしました

——新年の休暇中、何をして過ごしましたか？

新年は家族や友人たちと一緒に過ごしました。花火を楽しんだり、たくさんの楽しい時間を過ごしましたが、1月2日から学校が始まるので、あまり長くは遊ばませんでした。

——日本で過ごした時間の中で、最も印象に残ったことは何ですか？

大宮高校での経験や、鎌倉や東京での観光、そして日本のおもてなしが本当に素晴らしかったです。日本ではどこに行っても温かいおもてなしを感じました。

——日本の皆さんや、大宮高校の生徒たちに何か伝えたいことはありますか？

日本の皆さん、そして特に大宮高校の生徒たちに感動しました。学校に対する皆さんの道徳観や姿勢、また強い絆やコミュニティ意識には驚かされました。ドイツとは大きく異なる部分で、本当に素晴らしいと感じました。

Carlo Weichert さん、ありがとうございました

参考文献

Young Germany Japan 「【今週のドイツ語】Glücksbringer」

<https://www.young-germany.jp/2019/12/gluecksbringer/>

Vollmond Online 「ドイツの年末年始・お正月の過ごし方と関連するドイツ語まとめ」

<https://vollmond.online/deutsch/jahresende-silvester-neujahr>